

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年7月9日(金)

その3

◇ 東井義雄 2編【勇気】と【スイッチ】 【勇気のスイッチ】

7月の朝会で児童に伝えた東井義雄（教育者）さんの「詩」二編を紹介する。

小さい勇気をこそ

東井義雄

人生の大嵐がやってきたとき
それがへっちゃらで乗りこえられるような
大きい勇気もほしいにはほしいが
わたしは小さい勇気こそほしい

わたしの大切な仕事をあとまわしにさせ
忘れさせようとする小さい悪魔が
テレビのスリルドラマや漫画にばけて
わたしを誘惑するとき
すぐそれがやっつけられるくらいの
小さい勇気でいいから
わたしは それがほしい

もう5分くらい寝ていたっていいじゃないか
けさは寒いんだよと
あたたかい寝床の中にひそみこんで
わたしにささやきかける小さい悪魔を
すぐにやっつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそほしい

明日があるじゃないか
明日やればいいじゃないか
今夜はもう寝ろよと
机の下からささやきかける小さい悪魔を
すぐにやっつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそほしい

紙くずがおちているのを見つけたときは
気がつかなかったというふりをして
さっさといちまえよ
かぜひきの鼻紙かもしれないよ
不潔じゃないか と
呼びかける小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそ わたしは ほしい

どんな苦難ものり切れる
大きい勇気もほしいにはほしいが
毎日 小出しにして使える
小さい勇気でいいから
それが わたしは たくさん ほしい

そういう小さい勇気を軽蔑してはい
いざというときの大きい勇気も
つかめないのではないだろうか



心のスイッチ

東井義雄

人間の目は ふしぎな目
見ようという心がなかったら 見ているも見えない

人間の耳はふしぎな耳
聞こうという心がなかったら
聞いていても 聞こえない

頭も そうだ
はじめからよい頭 わるい頭の区別があるのではないようだ
「よしやるぞ!」と
心のスイッチが入ると

頭も
すばらしい はたらきを しはじめる

心のスイッチが 人間を
つまらなくもし すばらしくもしていく

電灯のスイッチが
家の中を明るくもし 暗くもするように

